

太宰府の文化財

472

鏡を包んだ葛布

市指定文化財第31号 菖蒲浦第1号墳出土品

かつて高雄2丁目の丘陵には、菖蒲浦古墳群がありました。この古墳群は昭和50年に太宰府南小学校の建設に伴って調査され、このうちの1号墳からは、青銅製の鏡が布の付いた状態で見つかりました。今回はこの鏡に付着した布に焦点を当てます。

鏡が副葬されていた古墳は、古墳時代中期(約1600年前)に造られた直径約15〜16mの円墳です。埋葬施設の1号主体部は割竹形木棺で、棺の中は赤色顔料が塗られており、遺体とともに鉄剣・鉄斧・勾玉

など、多くの副葬品が納められていました。この中に、布で包まれた鏡がありました。

出土した鏡は方格規矩鏡といい、錆によって布が土に還らず、鏡面・背面に付着した状態で見つかりました。この布を観察してみると、錆により緑色に変色していますが、布目はとても粗く、糸の筋がよく見えます。この布について調べた結果、葛を原料としている可能性が高いことが分かりました。葛とは山野に自生するマメ科の蔓性植物です。根にはでんぷんが多く含まれ食され

るほか、繊維質が強いため布として丈夫であり、夏の肌着など今日まで使用されています。鏡に付着した葛布は、葛皮の繊維を柔らかく処理した後、紡いで糸にしたようです。糸は経糸・緯糸とも右によられ、その糸を編んで粗い織物として鏡を包んでいます。

古墳時代、鏡は物を映すことよりも、権力を表すもので、祭祀に用いられる道具として重要でした。そのことから、鏡も布で包んで丁寧な副葬されたと考えられます。鏡に布が付着している例は、奈良県の桜井茶臼山古墳や兵庫県の西求女塚古墳など各地で確認されており、葛布以外の絹などで包まれていたことが分かっています。その中で、本市の菖蒲浦第1号墳出土のもの、国内では現存する最古の葛布と考えられています。

化ふれあい館で開催中の「まるごと太宰府歴史展2024」で9月1日(日)〜29日(日)まで特別展示しますので、ぜひ来場してください。

文化財課 中村 茂央

「まるごと太宰府歴史展2024」
開催中(11月4日(月)まで)

関連イベント

過去に開催した「太宰府史跡これからの100年〜太宰府の源流と未来を語る〜」のシンポジウム『古代太宰府の客館と国際交流』の収録映像を上映します。

日時 9月21日(土) 午前10時〜正午
(当日先着順)

文化財の三次元データを公開中

「Sketchfab」(スケッチファブ)で、今回紹介した鏡も含めて市指定文化財の三次元データを公開しています。市ホームページ(ページID:30679)からもアクセスできます。アンケートへの協力もお願いします。



スケッチファブ



アンケート

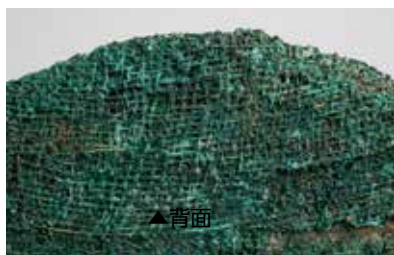


▲背面



▲背面

▲鏡面



▲背面

▲布目拡大写真

この古墳から出土した布は、当時の鏡の保管方法や副葬時の状況を知ることができ、織物史上でも貴重な資料です。この鏡を包んだ葛布は、現在文

